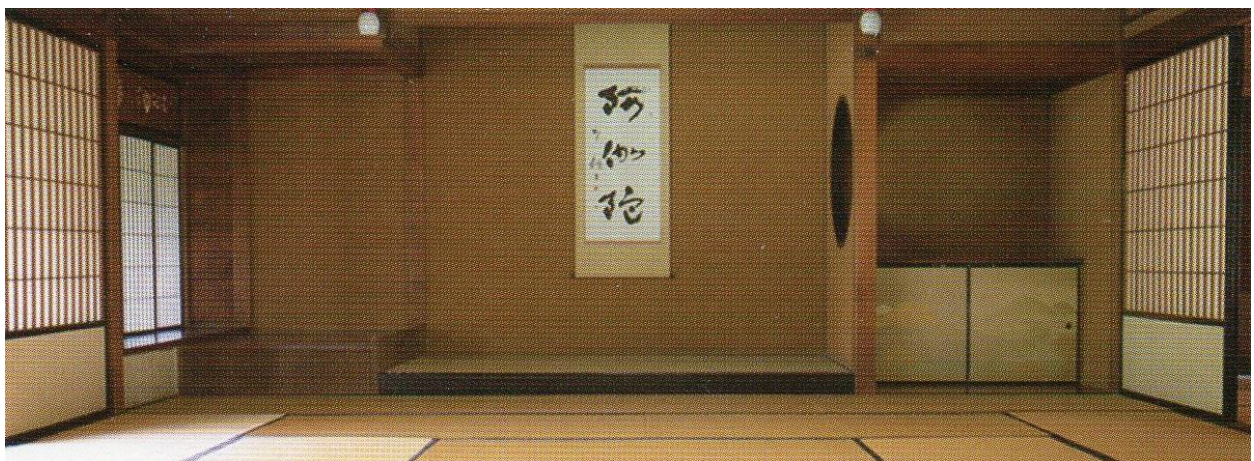




～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2017 年 春号
第 89 号



三重県桑名市 六華苑(旧諸戸清六邸)

目 次

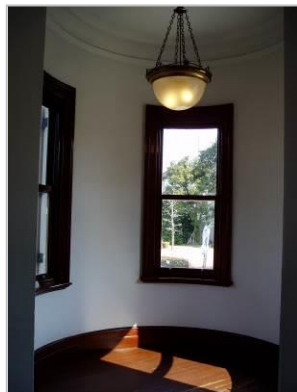
■ 早春の遠足 和室見学会に参加して	奥 宏美	1～2 ページ
■ オーストリア・ドイツ・ルゼンブルグ 早春の旅 (1)	本保 万貴子	3～5 ページ
■ 私の好きな建築	寺岡 春恵	6～7 ページ
■ 平成 29 年度事業予定	武市 啓子	7 ページ
■ フープ編集委員からのお知らせ		8 ページ
■ 今後の予定		8 ページ
■ 編集後記	寺岡 春恵	9 ページ

早春の遠足 和室見学会が3月19日に行われ参加しました。今回は、六華苑(旧諸戸清六邸) → 白鳥庭園 清羽亭 → 南山寿荘 捻駕籠の席(昭和美術館) → モザイクタイルミュージアムと、盛りだくさんな見学会でした。

まず、三重県桑名市にある六華苑(旧諸戸清六邸)に行きました。六華苑(旧諸戸清六邸)は、山林王と呼ばれた桑名の実業家 二代目諸戸清六氏の旧宅として、大正2年に竣工しました。敷地からは、揖斐・長良川が望むことができ、美しい日本庭園と洋館、和館、蔵が一体となった建物で構成されていました。



洋館は、「日本近代建築の父」と呼ばれたジョサイア・コンドル氏の設計で、地方に唯一残る作品とのことです。洋館には4階建ての塔屋がありますが、よく見るとちょっとバランスが・・・、ガイドの方のお話によると、設計段階では3階建ての塔屋でしたが、施主の諸戸清六氏の依頼により、途中で4階建てに変わったとのこと。4階建てにすることで、塔屋からの見晴らしが良くなったのです。今回、4階へは行けませんでした。4階へは行けませんが、きっとここからの眺めに、諸戸氏は満足されていたのだろかなあと思いました。また、塔屋の窓には曲面ガラスが使用されたり、照明器具やスイッチ、机などの調度品にも工夫がされていて、細部までの配慮がうかがえました。



和館は、流石に山林王の邸宅とあって、床に使用されている一枚板も、今では見ることがないような大きさでした。大広間から見える池泉回遊式の日本庭園、畳廊下、屋内から直接行ける蔵など、当時の実業家の

「お屋敷」と言うものを体感しました。



次は、名古屋市熱田区にある白鳥庭園 清羽亭です。白鳥庭園は池泉回遊式日本庭園で、中部地方の地形をモチーフに築山を「御嶽山」、そこからの水の流れを「木曽川」、流れの水が注ぎ込む池を「伊勢湾」に見立てています。そのほぼ中央、流れのほとりに清羽亭は位置しています。数寄屋建築の清羽亭は、主棟と二つの茶室、渡り廊下で繋がっている立礼席



で構成されていて、水上の茶室 汲江軒(きゅうこうけん)が四畳半、西部の茶室 澄蘆(しょうろう)は二畳

台目の小間、そして立礼席は椅子席となっています。

茶室や広間の設えは、建具や天井などの細部に渡るまで配慮がされていて、例えば立礼席の天井は萩の白糸編みの船底天井など、庭園内を流れる水との調和がきれいでした。ガイドの方の建設当時の裏話も楽しいもので、設計をされた茶室・数寄屋建築研究の第一人者である中村昌生氏の本亭への思い入れがよく伝わってきました。



前方に見えるのが立礼席

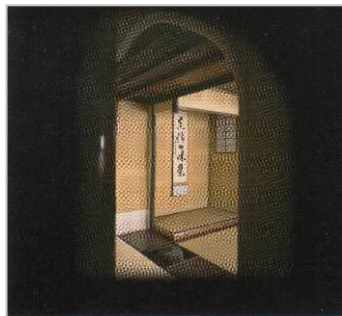


萩の白糸編みの船底天井

昼食の後、南山寿荘 捻駕籠の席(ねじかごのせき)を見学しました。

南山寿荘とは、尾張藩家老の渡辺半蔵規綱の尾頭坂別邸です。昭和10年から11年にかけて、名古屋堀川端より現在の場所へ移築されました。

捻駕籠の席は、南山寿荘の中にある茶室です。茶室の角度が全体の建物に対して斜めに振って配置されているので、丁度お駕籠を少し捻じって据えた格好に似ていることからこのように呼ばれるようになりました。内部は四畳中板出戸の席で、三畳の客座と中板を入れた点前座を遣り違いにし、正客から亭主を見るような位置に配しています。間取りは貴人席、相伴席、点前席の三つの空間に分かれていて、天井の高さや素材を変えることにより、それぞれの



空間に分かれていました。床は、点前座の方へ寄せられ、床脇が開放されているので、客座からも点前座からも床がよく見えます。

この茶室を建てた規綱は、又日庵(ゆうじつあん)と号し、茶道裏千家11代家元 玄々斎(げんげんさい)の実兄としても知られています。玄々斎がこの茶室建築に関与していたと思わせる遺構でした。見学後にお茶とお菓子をいただき、次の見学地へと移動しました。

最後は、モザイクタイルミュージアムです。施釉磁器モザイクタイル発祥の地で、全国一の生産量を誇る岐阜県多治見市笠原町にあります。

ここには、笠原町の有志が建物の解体情報を聞きつけてはタイルを譲り受け、収集したモザイクタイルやタイルの資料が展示されています。建物の設計は藤森照信氏です。すり鉢状に傾斜した地面に、タイルの原料を掘り出す採



土場をモチーフに設計されました。土の壁の大きな建物は、外観だけでなく屋内も印象的なものでした。

体験工房、3つの展示室、4階へ続く「巨大な土のトンネル」のような大階段など、それぞれに特徴がありました。4階の展示室は、設計者の藤森氏が展示資料を選定、3階は、多治見のモザイクタイルの歴史等、2階は最新のタイルの産業振興フロアに分かれていて、上階から順に見学して行きます。



ところで、「モザイクタイル」とはどのようなものかご存知でしょうか?「当たり前です!」と言う声も聞こえてきそうですが、今回、見学をしてきましたので少しご紹介をします。モザイクタイルとは、表面積が50cm²以下の小ぶりのタイルのことを指します。多様な形を組み合わせ、パターンを作り出すことができる建築物の装飾として活用されています。



かつてはよく見かけたものですが、最近ではあまり見かけなくなったタイル貼り製品が展示されていて、懐かしくもあり、また新鮮にも感じました。

モザイクタイルミュージアムは平成28年6月に開館しましたが、来館者が今年の2月にはもう10万人に達したとのこと!!

この日も大勢の人が見学に来られていました。

今回の見学会はお天気にも恵まれ、見どころ満載でお腹も大満足な旅でした。奈良県を出発し三重県、愛知県、岐阜県そして奈良県へと、長距離を常に安全運転で走行してくださいました方々には、本当にお世話になりました。お礼申し上げます。そして、参加された皆さま、お疲れ様でした。

※写真の一部は、当日いただいたパンフレット等から掲載いたしました。



久しぶりに国外に出た。1976 年新婚旅行で欧州 5 カ国を旅して以来 46 回目を数える。テレビや雑誌で絶景や貴重な建築物を知ると「現物が見たい」と思ったのが世界遺産巡りのきっかけだった。今回は（と言うか、もまた）2 年半ぶりに、4 度目の

奥太利(オーストリア)と 6 度目の独逸(ドイツ)、始めてお邪魔するルクセンブルク公国の 3 カ国。ドイツ語を少々囁っているのと、鉄道網が発達しているので一人旅でも楽だからドイツ語圏に行くのが多くなる。以前から友人の Mo(32 才)に、ウィーンの友人に会いに行きたいからと旅に誘われていて、彼女の都合で 4 月 3 日出発と決まったが、実は Mo は、ウィーンとベルリンで友人に会った後、英国人の彼と結婚する下準備のためイギリスへ渡るとのこと。と言うわけで、奥太利のリンツ・ウィーンと独逸のベルリンは二人旅、その後、独逸のハンブルグ・デュッセルドルフ・ケルン・フロイデンブルグ・コブレンツとルクセンブルグを私 Ma の一人旅で、10 日間遊んできた。

さて、フープ 5 月号に駄文ながら旅行記を寄稿するにあたって、最新建築情報にしようとは思いますが、一人旅できるノウハウみたいなものに脱線したり、足を踏み外してもご容赦を。

前置きが長くなったところで、4 月 3 日 9:30、航空運賃が最低価格だった大韓航空で関西空港を飛び立ち、仁川経由でウィーン(独語 Wine, 英語 Vienna)に同日 17:10 到着。時差が 4 月はサマータイムの 7 時間だから日本は 24:10。奥太利(独語 Österreich, 英語 Austria)は、面積も気温もほぼ北海道と同じ。東に頭があるオタマジャクシみたいな形で東西に長く Wine は頭の東寄り。周りを 7 カ国が囲み海はない。

Wine に 1 泊して、翌朝 Wels(ウエルズ)に向かう。Wine の友人夫婦に二人目の子どもが生まれ、Wels という田舎に引っ越していた。Wels は Wine から新幹線 ICE や RJ で 90 分ほど西へ行った町。友人宅でマッシュ

ルームのクリーム煮をごちそうになり、手土産の奈良ふきんを渡した。「使う前に 2 度洗いで糊を落として」と説明したが、伝わっていますように！

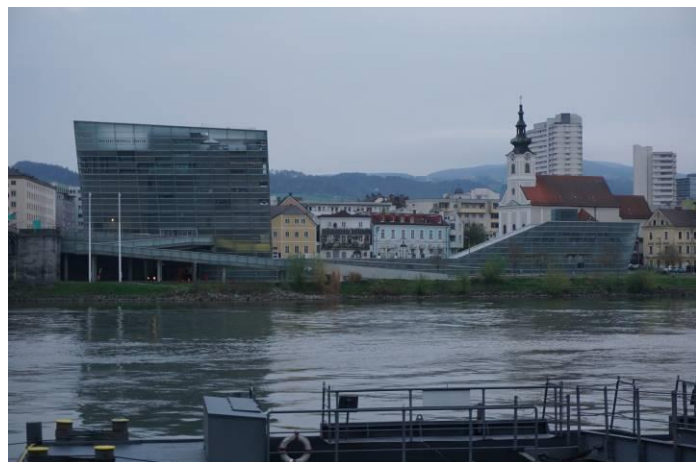
その日は Wels から東へ 20 分ほど戻った Linz(リンツ)に宿泊。初めての市内を見て回った。Linz は奥太利第 3 の都市だが旧市街は歩いて回れる。その旧市街を流れるドナウ川に架かるニーベルンゲン橋の両端に、レントス美術館とアルス・エレクトロニカ・センターが向かい合うように建っている。

レントス美術館は、ドナウ川岸に置かれた長方形の箱のようだ。スイスのウェーバー & ホッフアーケリエイティドの設計で 2000 年にオープン。レントスとはリンツの古い名称らしい。外壁一面を「lentos kunstmuseum」と印刷したガラスで覆われていて、夜間は建物全体が青やピンクに発光する。1 階は大空間のピロティと受付やレストラン。展示室はドナウ川の増水に配慮して 2 階にあり、長方形のフロアをドーナツ状に区切り、一周できるように配置。



川向こうのアルス・エレクトロニカ・センターは最先端のメディアテクノロジーとアートを体験でき

るミュージアム。確か1996年のオープンだと思う。閉館間近だったので館内を回れなかったのが残念。建物全体を磨りガラスの箱の中に納めた様な外観になっている。夜間は、向かいの美術館以上にカラフルに発光する。



夜はこの二つの建物がドナウ川に写り、停泊しているドナウのクルーズ船と相まって、夜景を彩っている。

3日目は早朝にWineに戻り、Wine Mitt駅で荷物をコインロッカーに預ける。ほとんどの駅に大型コインロッカーがあるので助かるが、1回2～8€で1時間～24時間と駅によって違うので注意が必要。移動の足は、一日券を買えばUバーン(地下鉄)、バス、トラム(市電)、Sバーン(郊外電車)が乗り放題、1回券は2～2.4€だが一日券は6～8€なのでかなりお得。ただ、乗れるエリアが決まっているので、その日の行動範囲でどの一日券にするか事前に決めて購入する。

二人は、まずは旧市街中心部のステファン大聖堂に挨拶して、そのゴシックを壁のガラス面に写して

いるハース・ハウス(プリッカー賞を受けたハンス・ホライン設計)の写真を撮り、オペラ座まで歩く。



オペラ座裏のザッハーホテル喫茶店がすぐに入れたので(前は2時間以上待ちだった)、名物ザッハートルテとメランジェコーヒーを注文。やっぱり美味しい。すぐ近くのInfoは、外観はクラシックだが内部インテリアが面白い。Wineは二人とも過去に観光しているので、ここから別行動。

Maは建築センターに寄るが余り収穫もなく、地下鉄U-2号線でウィーン経済大学新キャンパスに向かう。この大学は2013年に、ドナウ川とドナウ運河の新開発地にオープンした。敷地はサッカー場12面だそうだが、縦断するだけで地下鉄1駅分。



1 km以上あったように思う。

設計は、図書館・学習センターがザハ・ハディッド



D3 棟・大学管理部が CRAB スタジオ(ロンドン)



D2 棟・学習センターが阿部仁史アトリエ(仙台)



その他、エステディオ・カルメ・ピノス(バルセロナ)、NO MAD アーキテクトス(マドリード)等、世界的建築家が参画している。ザハの図書館はさすがに大迫力で平衡感覚がなくなりそうだが、どの校舎も個性的でカラフルでシックで、でも不思議と落ち着いていた。



次に、U-2 から U-1 号線に乗換、ドナウシティーに向かう。ドナウシティーは 1996 年からの新開発エリア。著名な建築家により現代建築が次々と建設されていて、最後の開発地区に建つのが DC タワー 1。完成は 2013 年。設計は、フラン

スのドミニク・ペロー。高さ 220m のスーパーランドマークである。

ビルの正面は、うねるガラスの外壁で、ドナウ川を横切る U-1 号線に面しており、側面はドナウ川に面している。駅に近いので助かった。

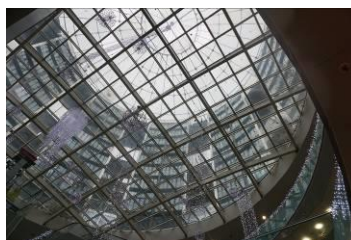
Wien では市立図書館本館や公共住宅、フランスのプリッカー賞受賞者ジャン・ヌーベルのユニークな住宅群、新しくなったウィーン中央駅の周辺再開発地区など、見たい建築物がまだまだあり、次回が楽しみだ。なお、前回に見たフンデルトバッサーハウスとガソメーターの写真も入れておくれ。フンデルトバッサーは、ご存じのように大阪市のゴミ焼却場設計者。イメージを外していない。1980 年の作品。



ガソメーターはガスタンクのことで煉瓦造りのガ



スタンク 4 棟の内部に共同住宅や商業施設を入れてリニューアルした。A 棟は前述のジャン・ヌーベル。内部の天井(屋根)をスチールやガラスを使って軽やかに明るくしている。そして斬新な住宅棟が、正に寄り添っている。



その夜に飛んだベルリンからの独逸は次回に。

私の好きな建築

寺岡 春恵



皆様に長年ご愛読いただきました「私と建築」が終了し、今回より新企画「私の好きな〇〇〇」ということで、自分の大好きな建築にまつわることをご紹介いただくコーナーをスタートすることとなりました。

その新企画スタートにフープ担当を今回で卒業させていただき私に、大役をいただき大変緊張しております。

「私の好きな建築」ということで、ご紹介させていただく建築は、今ではあまりにも有名な建物ですが、京都大山崎町にひっそりとたたずんでいる藤井厚二設計の「聴竹居」です。

初めて「聴竹居」を知ったのは、大阪府建築士会の見学会でした。10年以上前です。

友達の誘いで参加した京都大山崎周辺での見学会。まずは、有名なお茶室「待庵」、そして「聴竹居」、そして水無瀬神宮内のお茶室「灯心亭」を巡るというものでした。

当時は、竹中工務店の実測調査が終わり「環境と共生する住宅 聴竹居実測集」が発刊されて少し経った時期で、多くの方にはまだ、知られていない時期でした。オフィスとして借りられていた方のご案内で、建物内を見学させていただいたかと思います。

「待庵」の見学終了後、徒歩で「聴竹居」まで向かいました。途中緩やかな上り坂があり、その道に沿って建っている住宅もとても素敵な住宅で目を引くものでした。その住宅のお庭も、そして、その道々も緑豊かで、歩いているだけでとても気持ちのいいものでした。10分も歩かないうちに緑の奥に平屋建ての建物が隠れん坊をしているような面持ちで見えてきました。初めて見るその建物に何か懐かしさを感じたことを覚えています。

「聴竹居」は、環境共生住宅ということで日本の気候風土と日本人のライフスタイルや感性に適合した住宅を研究してきた藤井にとっての集大成がこの

建物にあります。当時としては最新のエレクトリックなものがありながらも、採光・通風・換気・断熱においては、建物内にたくさんの装置を作り自然のものが大いに取り入れられ、まさに環境と共生する建物となっておりアイデアBOXのようなお家です。



導気口



天井排気口

そのようなハードな部分もありながら、私が大好きなのは、縁側と呼ばれる南側のお庭をパノラマビューで見渡すことのできるお部屋と、読書室となっている子供2人と藤井氏の勉強部屋です。

サンルームのようなその縁側は、3方共ガラスで囲まれコーナーに柱もなく緑豊かなお庭をふんだんに見渡せるようになっており、そのお部屋の真ん中に座って外を見ていると、とても優雅な気持ちになるのです。また、そのお部屋の天井にある照明器具がおしゃれ。（上記天井排気口写真参照）そのお部屋に合わせてかどうか？窓に同じくコーナーが和紙だけになっています。



縁側 コーナー棚

そして、読書室。今であれば子供部屋は、子供勉強机とベッドを置く。勉強・就寝は同じお部屋になっているのが一般的ですが、このお部屋は、縁側に向けての2つの勉強机と方向を変えてもう一つの机。



読書室 造り付勉強机



読書室 藤井氏の机

娘2人と藤井氏が同じ部屋で学びの間として活用されていたのかな？と思うととてもホッコリします。造り付の勉強机も残っており機能的でとても素敵でした。

その後、2度ほど伺う機会があり訪れましたが、また、久しぶりに伺ってみたいくなってくる・・・そのような建物と場所です。

平成29年度事業予定

武市 啓子

女性委員会では、平成29年度の事業予定として下記の事業を予定しています。今年度も引き続き皆さまのご協力をお願いいたします。

記

7月15日、16日

第27回全国女性建築士連絡協議会（東京）

「未来へつなぐ居住環境づくり“和の空間を考える”」

8月 近建女交流事業「びわこペーロン大会」

9月 三委員会合同見学会（富山方面予定）

12月7日、8日、9日

第60回建築士会全国大会 京都大会

「山とまちと木造建築」

2月10日

近建女交流事業「くらしを見つめてセミナー」

※4月現在の予定です。追加事業等については追ってご連絡をいたします。

フープ編集委員からの

***** お知らせ *****

長く皆さまからお寄せいただきました「私と建築」は、前号でひとまず終了となりました。ご協力をいただきました皆さま、本当にありがとうございました。

今号より新しく「私の好きな〇〇〇」と題した新シリーズが始まります。「〇〇〇」は、建築にまつわることで、街並み、建物、公園、風景、場所など、旅先で、近場で好きな場所、ちょっと自慢したい所などをご紹介します。

有名な場所から超レアな場所まで、楽しいお話、写真をお待ちしております。

～ 私の好きな〇〇〇 ～

- ◆ 街並み
- ◆ 建物
- ◆ 公園
- ◆ 風景
- ⋮
- ⋮
- ⋮



今後の事業予定

- 5月11日（木）
一級建築士試験受付
(5/15日まで・奈良県建築士会館)
- 5月19日（金）
平成29年度通常総会
- 5月30日（火）
既存住宅状況調査技術者講習（移行講習）
- 6月7日（水）
第1期定期講習（奈良県産業会館）
- 6月14日（水）
既存住宅状況調査技術者講習（移行講習）
- 6月20日（火）
既存住宅状況調査技術者講習（新規講習）
- 7月1日（土）
建築士の日
- 7月2日（日）
二級建築士試験（学科）
- 7月23日（日）
一級・木造建築士試験（学科）

*** 編集後記 ****

2年間フープの編集に携わらせていただき今回で最後となります。至らないことばかりで皆さんには、大変ご迷惑をおかけしたかと思えます。

御寄稿いただきました方々には、お忙しい中ご協力いただき本当にありがとうございました。

皆様の見学会や講習会などに参加されての記事を拝読させていただきながら、その建物や講習内容など改めて興味をそそられる思いになりました。

今回号より新しくスタートする「私の好きな○○○」では、また皆様の鋭い感性で、その建物、その場所の新たな発見を拝読できることを楽しみにしております。

これからもフープへのご協力よろしく願いいたします。

(寺岡 春恵)

